

外部検証委員会（資産形成分野）次第

日時 平成 30 年 11 月 21 日（水）午後 3 時から
場所 益子町役場休憩室

1 開会

2 出席者紹介

3 配布資料の確認

4 案件

（1）概要説明（教育長・産業建設部長）

（2）施策ごとの検証（シート毎ではなく、各施策・複数課のシートに渡り質疑）

（3）その他

5 閉会

外部検証・意見シートの提出について

既にお配りしている「様式 2 外部検証・意見シート」につきまして、本委員会終了後 10 日を目安に、返信用封筒をご利用いただきご回答をお願いします。

新ましこ未来計画外部検証委員会（資産形成分野）発言要旨

日時	平成 30 年 11 月 21 日(水) 15:00～16:25	
場所	役場 職員休憩室	
出席者	委員	大岡委員、添谷委員、濱田委員（欠席：日渡委員）
	職員	岡教育長、大内産業建設部長、高浜観光商工課長、大関建設課長、桜井生涯学習課長
	事務局	吉永係長、深谷
配布資料	次第、推進状況総括シート、推進シート	

発言者	発言要旨
教育長 産業建設部長	1. 開会 2. 出席者紹介 3. 配布資料確認 4. 案件 （1）概要説明 総括シートにより説明
委員	（2）施策ごとの検証 <u>OP. 56 施策 1 歴史や文化財の活用</u> 日本遺産の申請について、文化庁からアドバイスを受けてきたとのことであるが、概要について伺いたい。
生涯学習課長	今年度はまだ1回だが、昨年度は3回来訪した。申請するすべての自治体が文化庁から直接アドバイスを受けているわけでもないようである。回数が多ければ日本遺産に登録されやすくなるわけではないと断言されているが、アドバイスを生かして内容はよくなってきていると考えている。
委員	内定時期はいつごろか。
生涯学習課長	毎年 4～5 月ごろである。
委員	総括シートの説明だと、今後は直接面談ではなく文書のやり取りだけでアドバイスをやっていくとのことであったが、申請数は多くなっているのか。
生涯学習課長	申請数は多くなっている。今年度から文化庁が委託している会社を通して面談のアポイントを取るようになった。今後は今まで通りの面談だけではなく、メールでのやり取りも行われる。

委員	この取組については、目標はどこにおいているか。また、これまでの文化庁の感触はどのようなものと捉えているか。
生涯学習課長	日本遺産に認定され、文化財の活用を図ることを目標としている。文化庁では2020年までに100の日本遺産を認定するというので、これまでの認定は67件。あと2回の申請の機会がある。今回は76件の申請中13件の登録であった。本町の現状だが、感触については厳しいと考えている。前回から認定のボーダーラインにある団体がヒアリングに呼ばれていたようだが、本町は声がかからなかった。また、認定後全く情報発信等に取り組んでないところがあるらしく、ストーリーに加え、認定後の取組計画も評価を高くするとのことであった。
委員	生涯学習課では歴史講座、歴史めぐりなど住んでいる人が身近な歴史に興味を持つような仕掛けをしているが、私は評価している。ましこ検定では3中学校でも行うこととなっており、また七井中では、1泊2日の町内めぐりで町内の歴史・文化に触れる機会をもっている。
生涯学習課長	3中学校で行うましこ検定はふるさと教育の一環ともいえ、1年生は全員、2・3年生は希望者で受検することとなっている。また一般試験では、初級のほか、中級試験として筆記問題のものも作成する予定である。
委員	<u>OP.57 施策2 風土や風景、風習の継承</u> アカマツの植樹を行ったということであるが、どのような内容であったか。
委員	私が益子里山の会として植樹にも関わっているが、昨年度は七井小が120本ほど植樹し、今年度は益子小が間伐、植樹を行い、来年は益子西小、再来年度は田野小が行う予定である。行政としては、県と町が協働で行っている。
教育長	新未来計画の計画期間である2020年度で全小学校で植樹が行えることとなる。
委員	どのような目的でアカマツは植えているのか。
委員	自然環境学習の一環としているようだ。アカマツが町木であるということ、登り窯の燃料であるということを認識してもらうことも含めている。将来的に、登り窯でも使えるという希望も込めているが、子供たちなので、伸び伸びと楽しくやっている。
委員	アカマツが町の財産であるとして位置付けられているようで、有意義であると思う。

委員	世間遺産の目標認定件数は。
生涯学習課長	55 件を目標とし、昨年度 20 件、今年上期 7 件が認定され、本年度も第 2 回目を 12 ～1 月に募集を行うこととしている。今年度で 30 件を超えればと考えている。
委員	認定されているものはすべて価値があると考えているが、それぞれの地域にはもっと認定されるべきものがあるのではないかと考えている。ましこ遺産に関して町民の関心が薄いのか、制度が理解されていないのか。募集していることも認定された物件も、目に触れるような情報発信が必要ではないか。
生涯学習課長	自治会長会議などではお願いをしている。
委員	自治会長は 1 年交代が多い。引継はうまくいかないのではないか。
委員	各自治会などに具体的に働きかけを行うことも必要ではないか。道の駅で「益子を知る・学ぶ・極める～ましこ世間遺産・町民大学・ましこ検定～」とする企画展が 12 月 16 日まで行われているが、良い企画だと思う。
委員	清浄寺の世間遺産の看板が国道からよく見えて PR 効果は十分と思うが、一見すると何が認定されているかわからない。
生涯学習課長	清浄寺は銀杏の木が認定されているが、看板に内容を記載する方がよいのではとの意見があり、対応しているところである。
委員	看板は職員の手作りによるもの。情報発信については町のホームページに空からの撮影など、普段見られない視点からの映像もある。続けて撮影・情報発信をお願いしたい。
委員	銀杏の周囲を大谷石や木の柵で囲い、存在感を出すのはいかがか。
委員	○P. 58 施策 1 ましこのランドスケープデザインの作成 ランドスケープデザインについて、壮大な話と考えるが、決定事項等はあるのか。
建設課長	概略でいうと、ましこならではの風土、風景を見つめ直し、益子のよいところを後世に引き継いでいくこととしている。それぞれの地域で異なる資産を旧 7 小学校区に分け引き出していききたい。大沢出身でスペイン在住の建築家である小堀氏に委託し、小堀氏は親交のある伊藤教授が在籍する東洋大学と組んで調査を行っている。東洋大の学生がフィールドワーク・地域の人へのヒアリングを行っている。調査は来年度まで継続していくが、町外者の視点で改めてわかるスポットもあるようで、土祭時に行った報告会では思いもよらない視点もあった。まとめは来年度となり、

	今年度は情報収集を行っている。
委員	委託をしているとのことだが、予算規模はどの程度であるか。また、デザイナーではなく社会活動をあまり経験していない学生がまとめるという点が気になる。
建設課長	今年度と来年度を委託しているが、それぞれ年額約 500 万円である。学生のフィールドワーク・ヒアリングについては、ランドスケープデザインをまとめるまでの一つの手法であり、全体のとりまとめは小堀氏と伊藤教授が行うこととなっている。
産業建設部長	小堀氏は既存の価値を継続させるべく、今あるものを残しながら必要箇所となるポイントに効果的に手を加えることで魅力的なスポットにすること、また、点（ポイント）と点（ポイント）を結び線や面として地域を計画する等、10～20 年という長期的な視点から風景・景観整備の研究や計画に携わってきた。行政のみではなく、地域の人と創り上げることを重要視している。
委員	土祭のスタンスと近いようだ。土祭の考えを取り込むというのもよいのではないか。
建設課長	確かに土祭と近い考え方であり、土祭期間中に旧小宅小で本業務委託のフィールドワークなどについて中間報告会を行い、その中でも意見交換を行っていた。
	OP.59 施策2 特性をいかした地域創生
委員	直接は関係ないが、役場から駅にいく橋は広がらないか。
建設課長	役場周辺区画整理の中で都市計画道路を駅前から役場西側かましん方面へ幅員 14 mを計画しているが、それ以外の計画地区内の小さい道路をどうするかというところも含め、地権者や居住者に説明会を行っている。今年度は準備会的なところまで進捗できればと考えている。
委員	久しぶりに高館城山頂に行ったが大変荒れており、上るところも傷んでいてもったいない。桜の木、梅の木も倒れたまま放置されていた。昔はもっときれいだった。町で一番シンボリックな山なので残念である。
委員	昔は大羽方面の展望がよかった。もう少し見えるように伐採すると良い。
委員	日本遺産と並行して山城高館城の史跡申請を研究してみたいかがか。
教育長	現在は調査をしないと、県の指定文化財になることはできない。
観光商工課長	伐採は費用も結構な額になってしまうと思われる。

委員	昔の高館山植生調査に同行したことがあるが、その調査した方からは高館山は珍しい植生が見られる場所であるので、手入れするべきでないとおっしゃっていた。ただ、山頂部分の倒木等は整備するべきである。
産業建設部長	県立公園の範囲内であり、やたらに伐採はできないが、観光資源でもあるので良い方向で検討したい。
委員	小宅古墳群は行政の力も借りて整備しているが、今年の台風で桜が倒れてしまい損傷が大きかった。地区の方から桜を補植したいとのことで、環境課から県の無償さくら苗木の配布をしてもらえるよう支援いただけないか。小宅地区の方から要望があった。
委員	桜の木は根が浅いと聞く。円道寺池の桜はどうなっているか。
委員	地元の益子花の会が面倒を見ているが、移植した大木はあまり状態が良くない。
産業建設部長	苗木から植えた若木は調子が良い。
委員	益子の森の遊具は新しくするのか。大分傷んでいた。
観光商工課長	新しく整備する。新設は県が行い、その後の維持管理は町で行う。県では希望がなければ撤去する方向であった。
産業建設部長	OP.60 施策1 町のブランドイメージの確立 ブランド戦略はどう進めていくのかということが難しい部分でもあり、会議を持つにも実行に移せない状況である。ブランドイメージも栃木県は下から2番目。ブランド順位を上げることにこだわるのか、県の方でもこれといって方針が定まっていない状況である。今のところ、イベント開催・支援によってブランドイメージをあげるとしている。
委員	KPI 魅力度ランキング 200位の根拠はどのようなところから考えて算出した数値なのか。
観光商工課長	設定当初が475位でその半分に相当する200位としたもので、毎年50位ずつ上げていきたいと考えている。
委員	芳賀郡では益子町が一番か。別の住みやすさランキングなどでは真岡市が上位に入ったこともあったが。また、全国や県内の状況はわかるのか。

産業建設部長	魅力度ランキングは、全国の市町村 1,000 団体が対象となっており、すべての市と町村は事務局選定団体と自己推薦によるもので、今年の全国順位は 1 位函館で上位 10 都市は毎年同じようである。県内では日光 11 位、那須塩原 120 位、宇都宮 150 位で、郡内では真岡 693 位、茂木 983 位であった。
委員	ランキングにはあえてこだわらなくてもよいのではと考える。
事務局	全体を通してご意見等はあるか。
委員	役場周辺の区画整理事業の説明会に参加した方々の雰囲気はいかがか。
建設課長	80 名程度の対象者うち参加者は 20 名程度であった。来場した方は前向きな方で、やるなら早くやってほしいという様子であった。雰囲気は決して悪くはないと捉えている。
事務局	(3) その他 外部検証・意見シートは 10 日程度を目安にご提出を願いたい。 5. 閉会